

練馬郷土史研究会会報

第 399号

平塚城と飛鳥山周辺歴史散歩(三) 葛城明彦

⑩石神井川「河川争奪」跡

京浜東北線で上野へ赤羽付近まで西側で続く崖は、かつて海が入り込んでいた時代に形成された海食崖(最後に海が入り込んでいたのは6,000〜8,000年前「縄文海進」)。飛鳥山(王子神社)間では唯一それが途切れているため、以前には「不忍池に向かって流れていた石神井川の流路を変更するため、豊島氏が開削したのではないか」とする説があったが、これは現在縄文期(約 6,000〜8,000年前)の自然現象「河川争奪」(※海側と川の圧力が呼応し合ったことで、壁となっていた地面が切れ、河川の流路変更が発生)によるものであったことが明

⑪王子神社

らかとなっている。1322(元亨2)年、豊島氏が熊野から若一王子の分霊を祀ったことに始まるとされてお(王子)地名の由来)、豊島氏と熊野信仰との密接な関係を示す神社の一つである。豊島氏は経営する荘園「豊島荘」の本所(荘園領主が庇護を求めたため、形式として土地を寄進した有力寺社)として京都の新熊野社を仰いだとされるが、これも未だ確証のあるものではない。境内には豊島氏の時代にすでに存在していたと思われる、イチヨウの大木(都天然記念物)が残る。また、戦前には「太田道灌雨宿りの椎」と伝えられる巨木も存在していたと伝えられている(※社に伝わる「勝海舟の修行伝説」は、向島「牛島神社」の誤り)。

⑫音無親水公園(音無溪谷)

石神井川は王子付近で「音無川」とも呼ばれていたが、これは「紀州熊野権現本宮近くの音無川にちなんで豊島一族が名づけられたもの」と伝えられている(紀州出身の8代将軍、徳川吉宗の命名)とする説もある。昭和30年代前半まで、川の南側には「バタヤ部落」と呼ばれる違法建築の家が建ち並んでいたが、1958(昭和33)年の狩野川台風の際にすべて崩壊・流出

した。一带は近年以降、区民憩いの場として整備されている。

⑬音無橋

1929(昭和4)年12月に起工し、1931(昭和6)年1月に竣工したアーチ型鉄筋コンクリート橋で、この橋は下で手を叩くと日光東照宮の「泣き竜」に似た現象が起きることも知られている。

⑭吊橋、旧・石神井川河道跡、東京層露出地

旧石神井川流路付近には、かつて同地に架かっていた吊橋が再現されている。また、遊歩道(旧・石神井川河道跡)脇には貝化石が出ることで知られる、12〜13万年前の地層「東京層」の露頭がみられる。

⑮金剛寺(伝・源頼朝宿陣地跡)

1180(治承4)年8月、源頼朝は石橋山の戦いに敗れ一旦安房に逃れたが、その後勢いを盛り返し、上総から下総を経て隅田川を渡り、10月には滝野川・松橋(板橋?)に布陣した。金剛寺一带はその際、頼朝の陣地になった場所と伝えられている。また、頼朝はその際、弁財天に祈願して境内に弁天堂を建立するとともに所領の田地を寄進したという。「源平闘諍録」には、梶原景時や畠山重忠がこの地で参陣したとの記述が残されている。

☆伝・滝野川氏館跡、滝野川合戦跡

金剛寺付近は、豊島氏の一族・滝野川氏の居館があった地ともされている。1159(平治元)年の平治の乱の際には付近でも戦闘があり、その際には源氏方・豊島清元が平家方・山内首藤家通を討っている。なお、このあたりは道灌の砦跡で「滝野川道灌山」と呼ばれていた、との言い伝えもあるが、これは誤伝と考えられる。

高札場

○九月例会 九月十八日(木)

東村山周辺歴史探訪

好天の東村山駅前から葛城明彦氏の案内でまず駅前の志村けんの木と銅像。三本のけやきは地元出身の志村けん活躍をたたえて植えられたもの。立派な銅像に驚く。旧鎌倉街道を通過して諏訪神社から東村山ふるさと歴史館へ。国重文の丸木舟未完成品が珍しい。

推定悲田処跡から公事道、久目河宿跡から板碑保存館の徳蔵寺、元弘の板碑は国重文。ここから先は山道になるので今日の猛暑ではかなりキツイとの葛城氏のアドバイスもあり数人の方がここでリタイヤされた。全部まわれなかつた方には主催者からお詫びします。勝陣場橋、久米川古戦場跡から八国山への登りは確かにキツク、多くの人が顎を出した。

麓の旧保生園から北山公園で一休みしたあと正福寺へ、北条時宗ゆかりの地藏堂は都内唯一の国宝建造物で外観を見るのみだったが、都内最大といわれる貞和の板碑を見てから東村山駅前に戻り十三時前解散した。暑さ厳しい半日であった。

■当日の参加者十七名(うち非会員二名)
上原菊枝 大河勝正 鎌田茂男 入谷加代子
島崎幸夫 鈴木順三 中平和成 荻原由美枝
服部正夫 三井俊一 八巻孝夫 寺田千香子
葛城明彦 中島正比古 船渡しげ子

○十一月例会 十一月二十日(木)
鎌倉甘縄を歩く

鎌倉駅西口時計台前から伊藤一美氏の案内で十三時三十分ごろスタート、すぐ近くのスーパージョイから伊藤屋付近がご家人千葉氏の屋敷跡の千葉

*次頁下段に続く